



저작자표시-비영리-동일조건변경허락 2.0 대한민국

이용자는 아래의 조건을 따르는 경우에 한하여 자유롭게

- 이 저작물을 복제, 배포, 전송, 전시, 공연 및 방송할 수 있습니다.
- 이차적 저작물을 작성할 수 있습니다.

다음과 같은 조건을 따라야 합니다:



저작자표시. 귀하는 원저작자를 표시하여야 합니다.



비영리. 귀하는 이 저작물을 영리 목적으로 이용할 수 없습니다.



동일조건변경허락. 귀하가 이 저작물을 개작, 변형 또는 가공했을 경우에는, 이 저작물과 동일한 이용허락조건하에서만 배포할 수 있습니다.

- 귀하는, 이 저작물의 재이용이나 배포의 경우, 이 저작물에 적용된 이용허락조건을 명확하게 나타내어야 합니다.
- 저작권자로부터 별도의 허가를 받으면 이러한 조건들은 적용되지 않습니다.

저작권법에 따른 이용자의 권리는 위의 내용에 의하여 영향을 받지 않습니다.

이것은 [이용허락규약\(Legal Code\)](#)을 이해하기 쉽게 요약한 것입니다.

[Disclaimer](#)

文學碩士 學位論文

「気」に関する慣用句の日韓対照研究



2012年 2月

釜慶大學校 大學院

日語日文學科

南 睦 美

文學碩士 學位論文

「氣」に関する慣用句の日韓対照研究

指導教授 孫 東 周

이 論文을 文學碩士 學位論文으로 提出함.



2012年 2月

釜慶大學校 大學院

日語日文學科

南 睦 美

南睦美의 文學碩士 學位論文을 認准함

2012年 2月



主審 崔 建 植 (印)

委員 張 相 彥 (印)

委員 孫 東 周 (印)

目 次

* Abstract	iii
I. 序論	1
1. 研究目的	1
2. 先行研究	4
II. 本論	7
1. 慣用句に関する定義	7
1.1. 辞典による定義	7
1.1.1. 日本語	7
1.1.2. 韓国語	9
1.2. 学者による定義	11
1.2.1. 日本語	11
1.2.2. 韓国語	12
2. 「気」の概念	14
2.1. 中国における「気」の概念	15
2.2. 日本における「気」の概念	15
2.3. 韓国における「気」の概念	16
3. 「気」の意味	18
3.1. 辞典による意味	18
3.1.1. 日本語の「気」の意味	18
3.1.2. 韓国語の「기」の意味	21
4. 「気」に関する慣用句の形態別分類	24
4.1. 日本語	25

4.1.1. 名詞慣用句	25
4.1.2. 形容詞慣用句	25
4.1.3. 動詞慣用句	27
4.1.4. 形態別比率	30
4.2. 韓国語	31
4.2.1. 形容詞慣用句	31
4.2.2. 動詞慣用句	32
4.2.3. 形態別比率	33
5. 「気」に関する慣用句の対照	34
5.1. 日本語の「気」に対応する言葉	34
5.1.1. 「마음 (心)」に対応する類	35
5.1.2. 「기분 (気分)」に対応する類	38
5.1.3. 「정신 (精神)」に対応する類	39
5.1.4. 「관심 (関心)」に対応する類	40
5.1.5. 「성질 (性質)」に対応する類	40
5.1.6 「신경」 (神経) に対応する類	41
5.1.7. 「마음 등 (心など)」に対応する類	42
5.1.8. 「그 외 (その他)」に対応する類	45
5.2. 韓国語の「기」の意味で表される言葉	49
5.2.1. 「気分 (기분)」の意味で表される言葉	50
5.2.2. 「性質 (성질)」の意味で表される言葉	51
5.2.3. 「その他 (그 외)」の意味で表される言葉	51
Ⅲ. 結論	54
参考文献	56

A comparative study for Korean-Japanese idiom about Gi

Mutsumi Minami

Department of Japanese Language and Literature, The Graduate School,
Pukyong National University

Abstract

Japanese and Korean have lexical and grammatical aspects in common. For smooth communication, even though idiom is hard to understand, it has history and way of thinking of its country, including components of its characteristics. Among many idioms, Gi (気) is used in daily conversation, helping understand about Japanese people.

Because the word, Gi, is included variety of meanings, it is thought that the word is not presented merely as Japanese itself.

In the paper, the theme is chosen for comparison of Korean-Japanese, studied for being used in communication in order to build a profound interrelation in the global age.

Because Gi comes from Chinese etymology, it is necessary to find out how chinese people grasp the word, and then the result is that the ancient Chinese people understood the universe with a bipolar(positive and negative) structure, which is called as the heavenly world and the earthly world. And a god in heavenly world could communicate with human through Gi.

Because Japanese people have no such belief in their minds, they grasp meaning of the word, Gi, emotionally. By the way the word is accepted as a aspect of medical field and health(力) in Korea, so it can be said that both countries have a different way to accept the idea about Gi.man through Gi.

For the meaning of Gi, it should be considered in the Korean and the Japanese dictionary, and the Japanese dictionary says that Gi has many meanings such as 「a movement of mind, action, condition, consciousness, nature」, especially invisible action, including many meaning of mind-related actions.

However, the idiom of Gi in the Korean dictionary is meant more likely in human's outer strength such as 「sourceful strength of activity, power of growing things, energy coming from when breathing, mental strength, and so on」 rather than its internality

With result of translating Gi idiom into Korean and Japanese, 64.4% of Japanese Gi can be translated into Korean word relating with mind such as heart, mood, nature, interest, concern, conscience, and so on, and 35.6% can be translated as other means.

And Korean Gi idiom can be translated into Japanese as words relating with mood(20%), nature(7%), and others(73%).

With the outcomes of translation, they show that contents with Japanese word Gi can be translated into Korean distinctively as variety of meanings that are formed with mind.

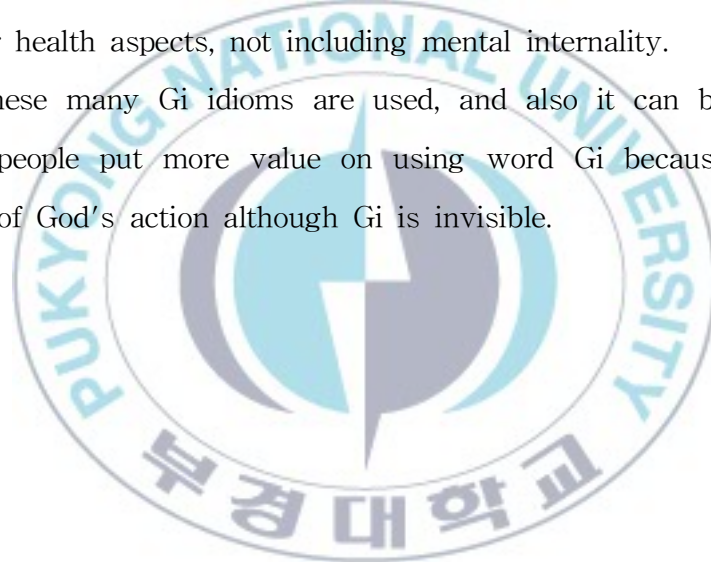
In the opposite way, Korean word Gi can be translated into Japanese with forms of clear meanings.

Although closely 65% of Japanese Gi can be translated into mind-relating words, it is because Japanese people do not have a belief about the heaven. So it is assumed that Japanese people get a grip on God's actions as Gi and on thing that affects on mind and spirit despite of its invisibility.

That is, Japanese people have used Gi as the existence of God's actions that affect on people's mind and spirit.

In Korea, on the contrary to Japanese, people get a grip on Gi as medical or health aspects, not including mental internality.

To Japanese many Gi idioms are used, and also it can be said that Japanese people put more value on using word Gi because it is the existence of God's action although Gi is invisible.



I. 序論

1. 研究目的

私たちは、同じ国同士で同じ言語を使ってコミュニケーションをしてもお互いを理解するというのは、やさしそうでありながら難しい問題である。そのなかでも、日本語と韓国語は言語類型として見たとき語順が同じで、漢字文化圏に属していて、近い国でありながらその違いは様々に多くある。現代はコンピューターの発達に伴い、様々な情報が飛び交う時代であり、国際時代でもあるため、国際結婚も増えてきている現代でもある。私たちの体の細胞のなかにも糖鎖というものが発見され、その働きは8つの糖が様々な形の組み合わせをし、細胞同士のコミュニケーションをするという。それは、体内の中で良いものと悪いものを識別し健康を維持できるように働いているといわれる。しかし、その8つの糖が正常に働かないとコミュニケーションができなくなり細胞間の正しい情報交換が行われなくなり、その結果として様々な病気を引き起こす原因となってしまう。細胞同士でも正しいコミュニケーションが行われなければ病気になるが、正しい言葉の疎通は個人、氏族、民族、国家と拡大されれば、されるほど大きな問題となるので円滑なコミュニケーションを図るという事はとても大切なことである。

下記の表は日本語実力の上級に該当する外国人と日本人の中学一年生を対象とした慣用的表現に対する理解度を調査した森田良行のイディオムに対する能力テストの結果である。¹⁾

1) 森田良行 (1996 : 65) 「慣用的な言い方」『講座日本語教育』第2分冊 明治書院

〈表1〉 森田良行のイディオム能力テストの結果

調査対象者	被調査者 数（名）	問題総数 （問）	正解数 （問）	誤.無回答数 （問）	正解率 %	誤解率 %
外国人上級	27	270	56	214	20.74	79.26
中学1年生	60	600	515	85	85.85	14.15

この実験の対象である外国人留学生は全て日本語の実力が上級以上をもっているが、慣用的表現に於いては日本人の中学1年生にも及ばないということがわかる。慣用句は一つの民族、社会、団体に習慣的に使われている固有の言語文化がそのまま反映されているものである。只、既存の文法や語彙の知識だけでは意味を把握するのに難しいため、外国人学習者にとっては慣用句が易しくないということがわかる。

慣用句は一種の比喩の表現でもあり、それらの意味は固定化している。正しく意味を理解しないと、頓珍漢な使用をしてしまったり、使用した相手に対して間違った応答をしてしまったりすることがある。

日本の慣用句には大きく分けて三つに分けられる。一つ目が「身体語彙の慣用句」二つ目が「心情語彙の慣用句」三つ目が「漢語慣用句」の慣用句である。例えば、「日本語教育による慣用句」²⁾で坂田雪子は、身体部分の「腹」や「胸」を含む慣用句についても、その実質的な用法と慣用句のもとになる比喩的な用法とのかかわりあいの点で、学習者の母語と対応しない面が大きい。「胸」を含む慣用句は「こころ」つまり、中国語では「心」英語では「heart」を含む表現と対応することが比較的多いので、「こころを宿すところ、すなわち、胸」という意味的なつながりで容易にとらえやすい面があるが、厄介なのは、日本語では「こころ」にその働きの根源があるととらえてもよさそうな人の意志・感情が慣用句の世界においては、「胸」と「腹」とで奇妙に意味を分けあっていることである。慣用句は句の成り立った背景を心えていなければ、句の意味が理解できない。また、的確に使用できないというもので

2) 坂田雪子（1985：88～89）「日本語教育における慣用句」1月号 明治書院

もない。日本人としての生活経験を積むうちに、そのような句がどんな事象と結びつくものであるかを自然に習得してしまうからであるが、言葉によって表される対象の世界から逆に、その句の表す意味を理解しているのである。もっとも、母語の習得の過程には慣用句に限らず、このような傾向が一般に認められることである。ところが、学習者の立場になると、よほど条件に恵まれなければ、そのような対象の世界から逆に言葉の意味に思い至るというようなことは、慣用句に関しては不可能に近いと述べている。

日本人はよく「気」を使う民族であるといわれる中で、「気」を使用した慣用句が多く目立つし、また、日常会話のなかでもよく使われる言葉でもある。赤塚行雄は「日本人が、個人心理についての情報に敏感だということは、こんにちでも変わらない。外国人はよく、日本人が外国から日本がどう思われているかということに気がしすぎると指摘するが、日常生活においても他人が自分をどう見ているか気にしすぎる傾向がある。」³⁾と述べている。例えば、日本語で「気が合う」という言葉を韓国語に訳すると「마음이 맞다」という意味だし、「気がある」という言葉は「관심이 있다」「気が利く」という言葉は「눈치가 빠르다」という意味である。このように日本語では気に関する慣用句では、韓国語で心や色々な表現として表されていくが、日本語では「気」の一言で表されている。

本稿はこの「気」を使った慣用句の使い方と用法を研究することを土台として、韓国と日本の両言語における表現上の発想や類似の様相に概観し、両言語会話の向上とともに、文化の違いを理解しコミュニケーションに役立てたいと思う。

3)赤塚行雄 (1996 : 13) 「日本における気の歴史」『日本語学』7月号 明治書院

2. 先行研究

今まで気に関する慣用句の研究はそれほどされていないが、박경희(2000)⁴⁾と、임은령(2006)⁵⁾は日本語の辞書の中にある、気に関する慣用句の意味分析であった。박경희は意味分析の中では、まず、気の意味を大きく「天地間に存在するもの」「人間に関連するもの」に分け、「気」は全部とっていいほど、「人間に関連するもの」で限られているとし、その中でもお互いの心理、心理的表現としてたくさん使われている中で、「人間に関連するもの」を大きく二つに分類して「肉体的な意味で使われているもの」と「精神的な意味として使われているもの」として分類し、さらに肉体的な意味として使われているものの中に該当するものとして、気力、元気、呼吸としてわけ、精神的な意味として使われているものに該当するものとして、意識、性格、感情、心の4つにわけ意味分析をしている。その内容を簡単にまとめた表が次の〈表2-1〉である。

〈表2-1〉 박경희 (2000) の意味分析

人間に関連するもの	肉体的意味の慣用句	気力
		元気
		呼吸
	精神的意味の慣用句	意識
		性格
		感情
		心

4) 박경희 (2000) 『氣에 관한 일본어 관용구의 연구』 동아대학교 대학원 석사학위논문

5) 임은령 (2006) 『氣의 관용구의 대한 의미 분석』 경희대학교 교육대학원 석사학위논문

임은령 (2006) に関しては、それらの研究の氣力に関する慣用句は、氣力は肉体を支える面もあるが、精神的な面がずっと大きいとして「氣を吞まれる」「氣を損ずる」という慣用句は、「感覚、感情を表現する慣用句」で不快と恐怖に含ませた。そして、「氣が尽きる」「氣を尽くす」「氣が引ける」という慣用句は「体、性格、態度に表現する慣用句」である氣力と熱中と消極的に含ませた。ゆえに、これらの慣用句は只単に、肉体的な慣用句としては説得できないとして見なし、意味分析を「感覚、感情を含む慣用句」「体、性格、態度を表現する慣用句」「行為、動作、行動を表現する慣用句」「状態、程度、価値を表現する慣用句」「社会、文化、生活を表現する慣用句」と大きく5つに分類して、またそれぞれを細かく分類している。その内容を表したのが次の〈表2-2〉である。

〈表 2-2〉 임은령 (2006) の意味分析

①	感覚、感情を含む慣用句
②	体、性格、態度を表現する慣用句
③	行為、動作、行動を表現する慣用句
④	状態、程度、価値を表現する慣用句
⑤	社会、文化、生活を表現する慣用句

これらは、日本語の氣に関する意味の分析であり、それらを土台として日韓の対照研究で、박부중⁶⁾が日本語の氣の意味分析を人間の身体に関する意味として、心理的、精神的、性質的、肉体的な意味を現すものと、天地自然界に関する意味として物質的な意味とにわけそれぞれに匹敵する慣用句の個数をわけ調査しているが、日本語の慣用句をただ意味分析し翻訳しただけで、具体的にどのような時に使うかという例

6) 박부중(2010) 『氣』의 관용구에 대한 한·일대조 연구』 충남대학교 대학원 석사 논문

題が少ないのでコミュニケーションする場合には応用ができない。鄭秀賢⁷⁾も気の語句をめぐる表現の日・韓対照研究で、日本語の気の翻訳を韓国語訳したとき、心、気分、精神、性質、神経、その他に分けて分析はしたが、どんな時に使うかという具体的な例題もなくただ翻訳して分類しただけである。気の慣用句に対しては心情的な意味あいが含まれているので、その応用に関しては韓国人では難しい点がある。本研究はそれらの研究の土台として、日本語の気の慣用句を韓国語で訳した場合どのような言葉として使われていくのかを考察し、また日本語の気の慣用句はどのような時に使うのかという事を例として挙げコミュニケーションに役立てるのはもちろんのこと、気の本義や意味を調べ日本と韓国の気の違いについても考察していきたい。

この論文では日本語の気に関する慣用句は5つの辞典の中に収録されている気に関する慣用句118例と、韓国語の慣用句も5つの辞典の中に収録されている気に関する慣用句を抜き出し、形態別、意味別に分けて、歴史的にどのように受け入れられ、発展してきたかについて考察しながら、日本人のとらえる気とは一体どういう意味が含まれているのかもさぐってみることにする。なぜならば、21世紀に入り国際化時代となり、言語が分かったとしてもお互いの文化の違いがわからなければ、コミュニケーションをする場合様々な支障が生じてくる。これからの時代においては言語を通したお互いの国の文化理解というものが必要になってくるのではないかと思うからだ。

それでは、まず慣用句の定義と意味について、どのように書かれているかという事を辞書と学者たちの見解を調べ、それらを土台として本稿での定義を決めることにしようと思う。辞典においては、『広辞苑』『大辞林』『国語学大辞典』『日本語文法大辞典』『日本語学研究事典』から調べ、学者においては、宮地裕(1982)と国広哲弥(1985)との見解を調べてみることにする。

7) 鄭秀賢(1996)「気の語句をめぐる表現の日・韓対照研究」『日本語学』7月号
明治書院

Ⅱ．本論

1. 慣用句に関する定義

慣用句の定義は辞書によって研究方法、または理論的な背景などが違うため、定義を決める事が難しい。慣用句は外形的に見れば単語が結合したものと考えられるが複合語のような自由な結合語ではなく、その全体が一つの意味単意になっているため、語彙的な言語の単位である。まず、慣用句がどのような定義なのかをいくつかの辞書と学者達の語る内容を通して調べることにする。

1.1. 辞典による定義

1.1.1. 日本語

日本語の辞典『広辞苑』と『大辞林』を調べると慣用句とは次のように整理されていた。

(1) 『広辞苑』⁸⁾： 二語以上が結合し、その全体が特別の意味を表す語。

(例) 「油を売る」「間髪を入れず」の類。イディオム

(2) 『大辞林』⁹⁾： 二語以上が結合し、その全体がひとつの意味を表すようになって固定したもの。

(例) 「道草を食う」「耳にたこができる」の類。イディオム

さらに、『国語学大辞典』には更に、もっとく詳しく掲載されていた。

8) 新村出 (1991) 『広辞苑』第4版 岩波書店

9) 松村明 (1988) 『大辞林』初版 三省堂

(3)『国語学大辞典』¹⁰⁾：イディオム (idiom)。広義には、他の言語との相対的な特色に基づいて、一つの言語の全体系をさすこともあるが、一般には狭義にある言語の特有な表現法をそのidiomと言う。日本で慣用句というのは、いつでも二つが一続きに、または相応じて用いられ、その結合が全体のある固定した意味を表すものをさす。下記の3つに分類している。

①その構成要素の意味からだけでは、その句全体の意味が理解できないような表現、すなわちもとの意味が拡張または転用され、あるいは比喩的に用いられて固定した表現。

「道草を食う」「元も子もない」「油を売る」「腹わたが煮えくり返る」「人をあごで使う」「ピンからキリまで」「ネコもしゃくしも」「カラスの行水」など

②その構成要素になる語がその結合語として用いられないような表現

例「悦に入る」「間髪を入れず」「興に乗る」など

③普通の文法や理論的な意味からは説明できないような表現

例「得せしむ」「無理からぬ」「負けず嫌い」「負けるが勝ち」など

(4)『日本語文法大辞典』¹¹⁾：イディオム (idiom) いつも一般に用いられる。

① もとの意味の語の拡張

例「元も子もない」「油を売る」「右肩上がり」

② もとの語の意味的結合の固定化

例「間髪を入れず」

③ もとの意味からは説明困難なもの

例「負けず嫌い」「ダメを押す」「いてもたっても」「ピンからキリまで」

10) 国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』 東京堂出版

11) 山口明穂・秋元守英 (2001) 『日本語文法大辞典』 明治書院

(5) 『日本語学研究事典』¹²⁾：慣用句は全体の意味が個々の語の意味の総話とは異なるものをいう。大きく分けて二つに分かれる。

(1) 意味に基づく分類

① 意味の不透明な語を含む場合

例) 「あっけに取られる」「どじを踏む」「くだを巻く」「うだつが上がらない」

② 文字通りの場合と両立している場合

例) 「足を洗う」「手を切る」「骨を折る」「足を出す」

③ 身振りの意味に基づく場合

例) 「首をかしげる」「肩を落とす」「首を長くして待つ」

④ 表現構造の変換に基づく場合

例) 「(仕事)が手に付かない ← 手が(仕事)に付かない」
「(家臣)を手に掛ける ← (家臣)に手を掛ける」
「(娘)を手塩に掛ける ← (娘)に手塩を掛ける」

⑤ 故事来歴に基づく場合

例) 「洞が峠を決め込む」

1.1.2. 韓国語

韓国語の慣用句の定義については日本と同じく明確ではないが、いくつかの辞典と学者たちの語る内容を通して調べることにする。韓国の辞典『国語大辞典』と『国語国文学辞典』を調べるとつぎのように整理されていた。

(1) 『국어대사전』¹³⁾：慣用句란 慣用語로 된 구로 英語로 idiom이다. (慣用

12) 飛田良文他 (2007) 『日本語学研究事典』 明治書院

13) 이희승 (1979 : 280) 『국어대사전』 민중서림

句というのは慣用語でなる句で英語はイディオムである。)

① 一般的으로 實質적으로 使用되고 있는 말. (一般的で實質的に使われていることば)

②文法上 理論적으로는 맞지 않으나, 多年간 實用이 되어 널리 쓰이는 말, 보통, 둘 以上の 單語가 의례 붙어서 쓰이는 것 또는 結合되어서 全体가 独特한 뜻을 나타내는 表現 등을 이룸.

(文法上理論的には合わないが、長年使われている言葉で二つ以上の單語がくっついて使われるもので、あるいは結合して全体が独特な意味を表す表現)

(2) 『국어국문학사전』¹⁴⁾: 慣用語란 廣義로는 다른 言語와의 相對的인 特色에 基礎한 한 言語의 全体形를 가리키지만 보통은 狹義로 어떤 言語 内部의 特有한 表現方法만을 그言語의 慣用語 또는 慣用句라 한다. 이의 몇 가지 類型을 보면 다음과 같다. (慣用語とは廣義では他の言語との相對的な特色に基づいて、一つの言語の全体系をさすこともあるが、一般には狹義にある言語の特有な表現法をその言語の慣用語または、慣用句という。その何種かの類型はつぎのとおりである。)

①文法的으로 正常的인 論理的인 表現과는 다른 非文法的·非論理的인 表現、즉 形態論的 慣用句. (文法的で理論的な表現とは別の非文法的、非理論的な表現、すなわち形態論的な慣用句。)

②文法的 構造는 正常的이지만, 그 각 構成要素의 意味들을 그대로 結合해서는 全体的인 뜻을 理解할 수 없는 表現、즉 意味論理的 慣用句. (文法的な構造は正しいが、その各構成要素の意味をそのまま結合しては全体的な意味としては理解することができない表現、すなわち意味論理的慣用句。)

14) 서울대東亞文化研究所 (1984 : 99) 『국어국문학사전』 신구문화사

③위의 두 부류의 特性을 모두 가진 表現으로 즉, 形態論的,意味論的 慣用句. (うえの二種類の特性をすべて持っている表現で、すなわち形態論的意味的慣用句。)

1.2 学者による定義

1.2.1. 日本語

慣用句において代表的な学者は宮地裕(1982)である。宮地は慣用句というのは一般的に広く使われているが、その概念は確実ではないと指摘して一般的に連語句や語の連結体で、句としてのかたまりを持っているものよりも結合度が高く、格言、及び諺とは別に歴史的、社会的な価値観を表すもので、そうでなければ大きく連語と成句を分け再び成句を慣用句と諺として分類してその意味的特徴に関して分析している。下記の図で表される。そして慣用句の特徴を品詞別、語彙別、形式上の特徴、形式上



の制約でみた特徴として分けて詳細に説明している。

これに反して、国広哲弥(1985)は慣用句を広い意味から連語も慣用句に含めている。狭義では慣用句と連語を次のように説明している。

「連語」 : 二つの単語の連結使用が構成語の意味でなく慣用によって決定されるため、全体の意味は構成語各々の意味から理解することができるもの

「慣用句」：二つ以上の単語の連結使用が固定になっていて、全体の意味は構成語の意味の総合から出ないもの

また、国広(1985)は慣用句を大きく意味的分類、連語、形式的分類に分けて説明していて、意味的分類は①構成語の意味が不透明な場合 ②比喩的な意味が発達した場合 ③文化が関係する場合、連語は ①柔らかい連語 ②硬い連語 ③成句の3つに分けている。形式的分類では①慣用的な直喩 ②有意義語の反復 ③変形型と分類している。

以上、辞書からみた慣用句の定義と学者たちからみた日本語の慣用句の定義を整理してみると、2つ以上の単語の結合が固定になった特定な意味をあらわしているものをいい、単語と単語の結合が強く、完全な一つの単語になってしまうものもあるが、その結合が弱いとそれぞれの単語に独立性があるものといえることがわかった。

1.2.2. 韓国語

次に韓国語の慣用句について、韓国の学者達の定義について調べることにする。

(1) 金鐘澤¹⁵⁾

idiom이란 文法論과 語彙論의 研究対象으로써 広義로는 다른 言語와의 相対적인 特色에 基礎하고 있는 한 言語의 全体形를 말한다. 그러나 보통은 狭義로 어떤 한 言語에 特有한 表現方法을 가리키는 뜻으로 쓰인다.

(イディオムとは文法論と語彙論の研究対照で、広義では他の言語との相対的な特色に基づく言語の全体形をいう。しかも一般の狭義はあるひとつの言語の特有な表現方法を差す意味として使われる。)

그 特有한 表現方法에 基礎하는 하나의 意味单位로서의 語形을 idiom이

15) 金鐘澤(1971: 198)「이디엄 研究」『語文学』25号 大邱教育大学校論文集

라고 부른다. 이것이 특히 慣用句라고 불릴 때에는 둘 以上の 單語가 함께 이어져서 혹은 相對하여 쓰여서 그 結合이 全体로써의 어떤 固定된 意味를 表現하는 것을 말한다。(その特有な表現方法に基づく一つの意味単位としての語形をイディオムと呼ぶ。これが特に慣用句だと呼ばれるときには、ふたつ以上の單語が連結され、その結合が全体的に固定になった意味の表現を言う。)

(2) 金圭善 16)

複合語彙 項目의 하나로서 單一複合單位인 複合語가 아니고 하나의 句 이면서, 그 뜻은 거기에 包含되어 있는 形態素 個々の 意味로서는 予測할 수 없는 構造의 言語 單位만을 가리켜 idiom이라 한 란개커(Langacker)의 概念을 基礎로 하여 慣用句를 句形의 言語單位로서、그 속에 包含된 形態素 個々の意味로서는 그 構造全体의 바른 뜻을 予測 할 수 없는 複合語彙 項目이라고 定義하였다。(複合語彙의項目の一つであり、單一複合單位で、複合語ではなく、一つの句でありながら、その意味が含まれている形態素の個々の意味としては予測されない構造の言語單位をさす。)

以上辞典と学者たちの定義からみた韓国語の慣用句の概念をみてみると、慣用句というのは、2つ以上の單語가自然に結合して作られた一つの句としてその結合が意味上新しい意味をもつようになった事といえる。

日本と韓国での慣用句の概念を整理してみると、それぞれの辞典を通してみた慣用句の概念と学者たちの先行研究上で色々な意見を定義としているが、その名称や概念がまだ確実に統一化したり、体系化していない。これは言語研究において慣用句가文法の一般的である法則や意味だけとしてその意味が簡単に理解できないので、それに対して定義にも学者たちに従って、研究方法とその背景によりそれぞれ別な様相をみ

16) 金圭善(1978 : 103) 「国語 慣用語句의 研究」大邱教育大学校論文集

るために、具体的に体系化ができない。

慣用句という用語は一般的に広く普遍化しているが、その概念が確実でなく、唯 2 つ以上の単語が結合してその結合が全体に新しい意味を内包したと一般的な共通点である。2 つ以上の単語の結合が固定になった特定の意味を表しているものをいい、単語と単語の結合が強く、完全な一つの単語になってしまうものもあり、その結合が弱いと各々の単語に独立性があるものもある。

本稿では、慣用句というのは 2 つ以上の単語が連結され長い間、固定された状態で使われながら 2 つの単語の意味が固定された単語をいうことを定義にし、気軽、元気、気象などのような単語は除いた。

2. 「気」の概念

「気」という単語は中国を中心として一つの漢字文化圏で日常用語と哲学用語で多様に使われている。個人の情緒や性格に関係することからはじめ、人間の一般の注意力、活動力、あるいは自然界や社会現象の動きの根元にいたるまで幅広く使われている。それでは、日本の気ということばはいつ、どのように形成して、どのように変化してきたのだろうか。日本も韓国も漢字文化圏である。漢字は中国から入ってきた。気も中国における気概念を土台として発展してきたので、慣用句の気がどのように使われているかという事を知るために中国における気概念を調べてみることにしよう。

2.1. 中国における「気」の概念

中国における「気」の概念¹⁷⁾によると古代中国の人々は、天界-地上界といった二極構造で世界を理解した。天界には、宇宙の絶対神である上天が、諸々の天界鬼神を従えて君臨する、上天・鬼神は天地の理法たる天道を管轄しており、天道の推移や気の循環を左右することにより、地上の人間にその意思を伝達するといった形である。人間は、天地の間を循環する気を、呼吸によって体内に取り組み、その気をまた外界に吐き出し、言語もまた気的一种と理解され、言語は意味を含むのでその言語に意味を込めるのは、人間の精神であり、そのため、人間の精神自体も気的一种と理解される。呼吸により人間と外界が気で通じていて、しかも人間の精神や言語が気的一种だとすれば、その同質性の故に、人間は己の意思や感情を言語に託して外界に発し、気の循環ルートに乗せることが可能になるので、他人を呪ったりすれば、その言辞は増悪の心気となって相手に届き、気の調和を乱して相手を苦しめたり、あるいは天井の神神に達して、相手に天神の罰を降ろさせたりする。人間の体内には、名状し難い気が存在する。その気は、人の心の義と道に応じて増減するから、気を養うには、己の心を正しく保つ必要がある。

2.2. 日本における「気」の概念

日本は古代から中国文化を大量に輸入し続けた。しかし日本にはもともと上天信仰が存在しなかったので、「書経」や「詩経」に見られる垂直的世界観が定着することにはなかった。また日本人は、宇宙論的思考が不得意なため、気の循環と変化を用いた世界観も受容されないで、物事を情緒的に思考する自らの嗜好に合わせ、もっぱら精神を表す気の内容概念を受容して、それを日本語の中で発展させてきたのである。幕末

17) 浅野裕一 (1996 : 34) 「中国における気の内容概念」 『日本語学』 7月号 明治書院。

から明治にかけて、西欧近代科学が導入されるに伴い、気体、電気、磁気などと気を用いた術語が大量に考案された。日本語に定着した気の用法の大部分が精神をしめす事例で占められる現象は心情を好む日本人の体質を見事に浮かび上がらせている。

普段人間が気づかないで使っている「気」という言葉は17世紀までに完成したらしい。「気」の用法は11、12世紀以前には「け」の用法も混同していた。たとえば「けしからん」や「けち」もそうである。「病気」と言うときは「気」であるが、「色気」と言うときは「け」である。これは「源氏物語」にさかんにでてくる「け」「けはひ」「けしき」「もののけ」などの「け」を受けていると考えてよい。けは、プシュケーのごとくあたりを漂うものである。気の問題は、心理学、精神病理学、医学はもちろんのこと、さらに、私たちの日常のものの見方、考え方、生活の仕方といった文化全般に深い関わってきている。¹⁸⁾

〈表3-1〉「気」の時代の変化

11.12世紀	17世紀	現在
け	気	気

2.3. 韓国における「気」の概念

中国の漢の時代には陽陰五行で気の理論が複雑に伝わって、宇宙自然の運行天門地理、そして養成医学、および吉凶の回復と関連になる日常生活まで気を使って全ての事を説明していった。宗時代には、儒家から理の存在を考えることで、その理と変わる概念で扱った。全ての存在の原因または道理として形状の普遍性をなして、現在

18) 赤塚行雄 (1996 : 11～12) 「日本における気の歴史」『日本語学』7月号 明治書院

の理気哲学の重要な概念を述べた。この気哲学が韓国に入ってきて、主に心性論として伝わって、道徳的根拠になる善悪の問題で心の性情を気としてみた。

簡単に3国の内容を比較してみると、次の表ようになる。

〈表3-2〉 3国の気の捉え方

国	中国	日本	韓国
気の捉え方	天界、地上界の二極構造、呼吸を通した人間のつながり	上天信仰、垂直的世界観の不足、情緒的思考	宇宙自然の運行天文地理、養成医学、吉凶運
	宇宙、心、精神、力	心、精神、内面的	力、医学、外的

次に、辞典の中に掲載されている意味について調べてみることにする。

3. 「気」の意味

3.1. 辞典による意味

3.1.1. 日本語の「気」の意味

気の意味について、日本の代表的な辞典である『広辞苑』と『新国語大辞典』と『大辞林』にはどのように掲載されているのかを考察してみる。

1. 『広辞苑』¹⁹⁾

(1) 天地間を満たし、宇宙を構成する基本と考えられるもの。また、その動き。

- ① 風雨、寒厚などの自然現象。「一象」「一候」「天一」
- ② 15日間を一期とする呼び方
- ③ 万物が生ずる根元「天地正大の一」

(2) 生命の原動力となる勢い

(3) 心の動き、状態、働きを包括的に表す語。ただし、この語が用いられる個々の文脈において、心のどの面に重点を置くかは様々である。

- ① (全般的に見て) 精神：「一を静める」「一が滅入る」「一が狂う」
- ② 事に触れて働く心の端々：「一が散る」「一が多い」
- ③ 待ち続ける精神の傾向：「一が短い」「一がいい」
- ④ ある事をしようとする心の動き：「どうする一だ」「一が知れない」
- ⑤ ある事をしようとして、それに引かれる心、関心：「一をそそる」「一を入れる」
「あの女に一がある」
- ⑥ 根気：「一が尽きた」

19) 新村出 (1991) 『広辞苑』 第四版 岩波書店

⑦ あれこれと考える心：「－を揉む」「－に病む」「－を回す」

⑧ 感情：「－まずい」「－を悪くする」

(4)はっきりとは見えなくても、その場を包み、その場に漂うと感ぜられるもの。

① 空気 大気「海の－を吸う」

② 水蒸気などのように空中にたつもの

③ あたりにみなぎる感じ 雰囲気 「殺伐の－」「鬼－」「霊－」

④ 呼吸 いきづかい 「－が詰まるような部屋」

(5)その物本来の性質を形作るような要素 特有の香や味：「－の抜けたビール」

2. 『新国語大辞典』²⁰⁾

① その場に漂っている感じ 清澄の気がみなぎる

② 吸ったりはいたりする息 息が詰まる（息もできないほど窮屈だ）

③ それぞれの人にそなわっている性質や傾向 気がつよい 気が長い 気がいい

④ 物事に対するときなどの思いや感情 気がせく 気がかわる 気がもめる 気をしずめる 気にくわない

⑤ なにかをするときの心のはたらき 気がきく 気がぬける 気をつかう

3. 『大辞林』²¹⁾

①生まれつきもっている心の傾向、性質、性格 ：「－が小さい」「－がいい」「－が合う」

②物事に積極的に立ち向かう心の動き意欲：「－が進まない」「－がはやる」

20) 林四郎 (1998) 『新国語大辞典』三省堂

21) 松村明 (1988) 『大辞林』初版 三省堂

- ③物事に引つけられる心の動き。関心。：「－のない返事」「彼女に－がある」「－をそそる」
- ④物事に対してもつ、または物事に影響を受けて変わる感情。情緒。：「－が沈む」「－が変わる」「－を悪くする」「－に入る」「－が詰まる」
- ⑤外界を意識し、外界と自分との関係を理解する心の働き。意識：「－を確かにもつ」「－が狂う」「－が付く」
- ⑥物事をうまく運ぶために、状況を的確にとらえる注意力。配慮：「－が回る」「－を付ける」「－を遣う」「－にとめる」
- ⑦物事を成し遂げるために心を支え動かす力。気力：「－を挫く」「－が張る」「－は天を衝く」
- ⑧ある物が含みもっていて、その物を生かしている目に見えないもの。特に、味わいや香りをいう。：「－の抜けたビール」「樽に酒の－が残る」
- ⑨目に見えないが、空間にたちこめているもの。精気。「山の－をいっぱいに吸う」
- ⑩その場に広がっている感じ。雰囲気。：「会場は厳粛の－に満ちている」
- ⑪これから何かをしようとする気持ち。つもり。：「彼を助ける－はない」「これからどうする－か」実際はそうでないのに、そうしたような気持ち「ちょっといやな－がした」「さびしい－がする」ころという語が精神活動を行う本体的なものを指すのに対して、気はその心の状態・反応など現象的な面をいう傾向が強い。気は心という言葉も、表面的な気の働きは本体としての心の表れであるという考えに基づく。
- ⑫宋学で理が万有を支配する原理であるのに対して、万物を形成する元素を気という。

以上の辞典は、中国の気概念が土台となっていることがわかる。日本語の辞典では「気」は目には見えないが、人間の精神やところに働きかけ、心を動かし、感情

を生み左右し、肉体には呼吸を通して入り込み、自然界に於いては、万物の生成根本であったりと多様な働きをする存在であることが分かる。それでは、韓国語の기(氣)の慣用句はどのような意味が含まれているのか韓国の기(氣)を調べてみることにする。まず、辞典では『국어대사전』『우리말사전』『표준국어대사전』『엣센스국어사전』『연세한국어사전』の辞典で考察してみることにする。

3.1.2. 韓国語の「기」の意味

1. 『국어대사전』²²⁾

- ① 숨쉴 때에 나오는 기운 (息をする時の出る氣運)
- ② 생활, 활동의 힘, 원기, 정기, 생기, 기력 따위 (生活、活動の力、元氣、天氣、生氣、氣力など)
- ③ 있는 힘의 전부 (ある力の全部)
- ④ 기색이나 느낌 (氣配や感じ)
- ⑤ 중국 철학에서, 만물 생성의 근원이 되는 힘 (中國哲學で、萬物生成の根元になる力)

2. 『우리 말사전』²³⁾

- ① 옛날 중국에서 15일을 일기로 하는 명칭 (昔の中國で15日を起こさせる名稱)
- ② 동양 철학에서, 만물을 생선하는 근원의 세기 (東洋哲學で、萬物を生成する根元の期)
- ③ 생활, 활동의 힘 (生活、活動の力)
- ④ 있는 힘의 전부 (ある力の全部)
- ⑤ 인간의 정신 활동, 정신력 (人間の精神活動、精神力)

22) 이희승 (1990) 『국어대사전』 민중서림

23) 김승곤 (2008) 『우리말사전』 한글학회

- ⑥ 숨을 쉴 때 나오는 기운 (息を吸うとき出る気運)
- ⑦ 뻗어 나가는 기운 또 왕성한 정신 (生きていく気運、または、完成した精神)
- ⑧ 개기로 쓰는 기운 (気運)
- ⑨ 막연한 전체적인 느낌, 분위기 (漠然として全体的な感じ、雰囲気)

3. 『표준국어대사전』²⁴⁾

- ① 활동하는 힘 (活動する力)
- ② 숨 쉴 때 나노는 기운 (息をするときでる気運)
- ③ 예전에, 중국에서 15일 동안을 이르던 말 (以前、中国で15日間を成した言葉)
- ④ 동양 철학에서 만물 생성의 근원이 되는 힘 (東洋哲学で万物を生成の根元になる力)

4. 『옛센스국어사전』²⁵⁾

- ① 활동하는 힘 (活動する力)
- ② 숨 쉴 때 나노는 기운 (息をするときでる気運)
- ③ 막연한 전체적인 느낌, 분위기 (漠然な全体的な感じ、雰囲気)
- ④ 예전에, 중국에서 15일을 일기로 하던 명칭 (以前、中国で15日を起こさせるのにした名称)
- ⑤ 동양 철학에서, 만물을 생성하는 근원이 되는 기운, 원기 (東洋哲学で万物を生成した根元になる気運、元氣)

24) 국립국어연구원(1999) 『표준국어대사전』 두산동아

25) 이희승 (2006) 『옛센스국어사전』 민중서림

5. 『연세한국어사전』²⁶⁾

- ① 몸의 속에서 생겨나 온갖 움직임과 힘을 일으키는 기운 (体のなかでできる動きと力を起こさせる力)
- ② 활동의 근원이 되는 생기나 기력, 정신적인 힘 (活動の根元になってできる気力、精神的な力)

日本の辞典で掲載されている内容とは、日本に於ての気の意味というのは、精神的な心の働きと言うように、どちらかという活動的力というよりは、内面的な精神的なものに捉えている傾向に比べ、韓国では活動の力、気力、精神力、万物生成の時の力、息といった具合に外的な力のほうに捉えていることが分かった。以上のことを通しても分かるように、日本人の捉えている気の意味と韓国語の気の意味の違いを感じられる。以上のことは辞典からみた「기」の意味である。

26) 연세대언어정보개발연구원 (1998) 『연세한국어사전』 두산동아

4. 「気」に関する慣用句の形態別分類

5種類の辞典に収録されている「気」に関する慣用句は全部で118個があった。この118個の気の慣用句の「気」の後に続く助詞がどのような品詞と結合するかについて調べることにする。その形態を、気のあとに続く助詞「の／は」に名詞が連結されたものを名詞慣用句とし、気のあとに続く助詞「が／の／は／も」に形容詞が連結されたものを形容詞慣用句とし、気のあとに続く助詞「が／で／に／は」に動詞が連結されたものを動詞慣用句と呼ぶことにする。

- (1) 「気+の／は+名詞」
- (2) 「気+が／の／は／も+形容詞」
- (3) 「気+が／で／に／は+動詞」

このような3種類の形態別分類は宮地裕（1982）の分類方法の基準で区分し、気と結合した品詞が名詞、形容詞、動詞によって(1)を名詞慣用句、(2)を形容詞慣用句、(3)を動詞慣用句として分類し、「気」の慣用句の結合度は大谷晋也²⁷⁾による方法で分析をした。名詞慣用句には「気+の+名詞」「気+は+名詞」とわけて、形容詞慣用句は「気+が+形容詞」の一種類の形に、動詞慣用句は「気+に+自動詞／他動詞」「気+が+自動詞／他動詞」「気+を+他動詞」の3種類の形と「気+で／は+動詞」の形態に分類し構成の比率とそれぞれの特徴をみることにしよう。

27) 大谷晋也(1996) 「気の慣用句の結合度」 『日本語学』7月号 明治書院

4.1. 日本語

4.1.1. 名詞慣用句

名詞慣用句の定義を「気+の／は+名詞」には助詞「の」「は」等が使用されている句をいい、「気+の+名詞」の慣用句は1個で比率は0.85%と「気+は+名詞」の慣用句は1個で比率は0.85%である。全体の「気」に関する慣用句の中で2個で比率は1.7%を指示している。「気はこころ」は気と心は同じか、似たものであるけれど同じではない。少しのことでもそのひとの真心を表す時に使われる。

〈表 4-1〉形態別分類の構成

気+名詞 (の／は)	気の毒
	気はこころ

4.1.2. 形容詞慣用句

形容詞慣用句には「気+が+形容詞」慣用句をいい、118個のなかで19個がある。全体の慣用句の中で比率は16.1%である。この中で10個は反意語である。これは形容詞の一番の特徴で述語部分だけを反意語にかえられる。

「気が大きい-気が小さい」「気が重い-気が軽い」「気が強い-気が弱い」「気が長い-気が短い」「気がいい-気が悪い」がある。「気が大きい」という意味は考え方が大きいという意味で、逆に「気が小さい」とは、度胸がないという意味として使われる。「気が重い」というのは、乗り気がしなくて気持ちの負担が大きいという意味をいし、「気が軽い」という意味は、気持ちの負担が軽いことを表し、「気が強い」というのは、性格が負けず嫌いで何でも人よりは上になることを好む傾向があり、「気が弱い」というのは、意志が弱くどちらかというすぐ負けやすい性格をいい、「気が

長い」と言う意味は、性格がのんびりしていることをいい、「気が短い」というのは性急な性格をいう。「気がない」は「気がある」の動詞慣用句になっている反意語をもっている。「気がいい」というのは、気持ちの持ち方を良い方向に考える人のことをいい、「気が悪い」というのは、相手に対して何かをしてもらったとき、気兼ねするときの表現で使う場合もあるし、その人自身の性格がひねくれていたり、否定的な考え方をする人のことを言う場合もある。

二番目に「が」を「は」「も」に置き換えることが可能である。

三番目には「気の荒い人」「気のいい人」「気の大きい人」というように連体修飾機能をもつものも多いため「が」を「の」にかえることができる。

四番目に「気の強さ」「気の弱さ」「気の大きさ」のように形容詞を転成名詞化した表現もなりたつ。五番目に、気弱、気長、気短、気重、気軽などのように一語化できるものがある。六番目に強気、弱気、短気などのように主述逆転による表現もあり、七番目に「～する気がない」と同じく「気」の部分だけ連体修飾が可能である。

〈表 4-2〉形態別分類の構成

気 + 形容詞		
気がいい	気が悪い	気が多い
気が大きい	気が小さい	気が早い
気が重い	気が軽い	気が若い
気が長い	気が短い	気が荒い
気が強い	気が弱い	気が楽だ
気が無い	気が気でない	気もそぞろ
気のない	—	—

4.1.3 動詞慣用句

動詞慣用句とは日本語の気の慣用句のなかで気の次の助詞「が／で／に／の／は／を」が品詞の自動詞と他動詞に続くものをいう。

慣用句の中で一番多く使われている慣用句は動詞の慣用句だと言える。動詞の慣用句は助詞「が」「で」「に」「の」「は」「を」の結合で118個のうちで83.9%を支持している。

「気+が+自動詞／他動詞」でなる助詞「が」の結合は43個で比率は36.4%を支持しており、「気+を+自動詞／他動詞」でなる助詞が「を」の結合は40個で比率は33.9%となっている。「気+に+自動詞／他動詞」は14個で比率11.9%「気+は+自動詞／他動詞」はそれぞれ1個ずつで合計14個で比率11.9%である。次の表はこれらの内容を整理した表である。

〈表 4-3〉形態別分類の構成

番号	気+が	気+を	気+に／は
1	気が合う	気を失う	気に合う
2	気が改まる	気を奪われる	気に入る
3	気がある	気を入れる	気に応ずる
4	気が置けない	気を置く	気にかかる
5	気が勝つ	気を起こす	気に掛ける
6	気が利く	気を落とす	気に食わない
7	気が変わる	気を兼ねる	気に障る
8	気が狂う	気を利かせる	気にする
9	気が腐る	気を配る	気にそまない
10	気が知れる	気を砕く	気に留める
11	気が差す	気を静める	気になる
12	気が沈む	気をせく	気に向く
13	気が知れない	気をそらす	気に病む
14	気がする	気を損ずる	気は世を蓋う
15	気が済む	気を使う	
16	気が進まない	気を尽くす	
17	気が急ぐ	気を付け	
18	気がそがれる	気をつける	
19	気が通る	気を通す	

20	気が立つ	気を取られる	
21	気が違う	気を取り直す	
22	気が散る	気を取る	
23	気がつきる	気を抜く	
24	気が付く	気を吞まれる	
25	気が詰まる	気を吞む	
26	気が咎める	気を吐く	
27	気が遠くなる	気を張る	
28	気が上る	気を引き立てる	
29	気が抜ける	気を引く	
30	気が乗る	気を触る	
31	気が弾む	気を紛らわす	
32	気が晴れる	気を回す	
33	気が張る	気を持たす	
34	気が引ける	気をもたせる	
35	気が触れる	気を揉む	
36	気が減る	気を許す	
37	気が回る	気を緩める	
38	気が向く	気を良くする	
39	気が滅入る	気を悪くする	
40	気が揉める	気を変える	
41	気が休まる		
42	気が緩む		
43	気がさわやかになる		
合計	43	40	14

動詞の慣用句の中で格助詞が「が」に固定しているものの中で、「気が合う」「気がある」「気が置ける」「気が済む」「気が急く」「気が立つ」「気が違う」「気が詰まる」「気が遠くなる」「気が咎める」「気が引ける」「気が触れる」「気が知れない」「気が進まない」「気が乗らない」ここに挙げた慣用句は、慣用句全体がある心的状態を表すのに使われ、形容詞的な意味あいを帯びるため、動詞部分の自他の交替が不可能であり、無意志的な意味を表すので、一般に命令や希望のムードで表現ができないし、受身や使役表現も作れないし、迷惑受身にもできない。否定形は「気が置けない」「気が気でない」「気が知れない」のように作れる。

「気が進まない」の表現は否定形に固定して使われ、肯定形で使われることはない。格助詞が「が」に固定しているものは「気」の結合度の中で、もっとも結合度が高い格助詞が、「を」に固定している慣用句は、「が」に固定しているものより結合度は低い。「気を持たせる」は使役に固定され、「気を取られる」「気を奪われる」「気を吞まれる」は受身に固定される。格助詞が「を」に固定しているため、受身にした場合は迷惑受け身になる。一般に「を」を「も」や「は」におきかえるのは比較的容易であり、否定形を作ることも可能である。また、命令や意志などのムードと結び付くことが可能なものも半数ほどある。また、「気を落とす」「気を遣う」「気を悪くする」などは句の固定を崩した尊敬表現にしやすい。慣用句で派生した複合語として意味が変わらない慣用句は「気落ち」と「気遣い」がある。

「気+に／自動詞／他動詞」の特徴としては、「気に掛かる／気にかける」「気にする／気になる」のように自動詞と他動詞の変形が可能である。「気にする」と「気に入る」に限っては、尊敬表現と「お気に召す」「お気に入る」「気に入られる」と同じく尊敬表現、名詞化表現、受動表現が可能である。「気に入る」「気に障る」「気に留める」「気に痛む」は否定形を簡単に作れるが、「気に食わない」はいつも否定形しか使えない。今まで、日本語の気に関する慣用句が気のあとに続く助詞とそれに続く品詞を形態別に分類し比率を出したのが次の表である。

4.1.4. 形態別比率

下の表をみると全体の118個の慣用句の中で97個は動詞慣用句であるのが分かる。全体の82.2%を示していて、自動詞と他動詞が約半分ずつを示しているのを見ると、気の慣用句は何かに働き掛けをし、何かの働き掛けを受けるのが分かる。次は韓国語の場合を考察してみよう。

〈表 4-4〉 形態別分類における構成比率

分類	個数	比率 (%)	形態別分類に従う構成	個数	比率 (%)
名詞慣用句	2	1.7	気+の+名詞	1	0.85
			気+は+名詞	1	0.85
形容詞慣用句	19	16.1	気+が+形容詞	19	16.1
動詞慣用句	97	82.2	気+が+自動詞／他動詞	43	36.4
			気+を+自動詞／他動詞	40	33.9
			気+に／の／は／+自他動詞	14	11.9
合計	118	100	合計	118	100

4.2. 韓国語

韓国の慣用句の「기」に関する慣用句を『국어대사전』『우리말사전』『표준국어대사전』『옛센스국어사전』『연세한국어사전』の5つの辞典で調べてみると、「기」で表される慣用句は15個しかない。韓国語の「기」に対する慣用句を形態別に見れば、ほとんど動詞の慣用句である。動詞慣用句と形容詞慣用句しか探せない。この研究では日本語の気の慣用句の分類と同じく、韓国語の「기」のあとに続く品詞が形容詞の場合を、「形容詞慣用句」と呼び「기+形容詞」と表し、「기」のあとに続く品詞が動詞の場合で、「기」に続く助詞「가」が自動詞に続く場合を「기+가+自動詞」と表し、「기」に続く助詞「를」が他動詞に続く場合を「기+를+他動詞」と表すことにして分類して、日本語の気に関する慣用句との比較を試みることにする。日本語の気に関する慣用句では名詞慣用句もあったけれど、韓国語の「기」に関する慣用句では韓国における「기」は、心や精神的な意味のように内的な面を指すというより、外的な力、息、というように行動的な表現の方が多いため、名詞慣用句はみあたらなかった。

4.2.1. 形容詞慣用句

韓国の「기」の慣用句の中で形容詞が続く慣用句を考察してみると次の通りである。

(1) 「기+形容詞」

韓国の「기」の慣用句のあとに続く品詞が形容詞の場合を形容詞慣用句と呼びこの表記で表した。「기+形容詞」の慣用句の形態別の慣用句は、全体で15個の慣用句の中で4個、26.7%を支持している。

〈表 5-1〉形態別分類の構成

「기+形容詞」
기가 세다
기가 부족하다
기가 왕성하다
기가 등등하다

次に、動詞慣用句にはどのようなものがあるのか調べてみたら以下の結果になった。

4.2.2. 動詞慣用句

韓国語の「기」に関する慣用句のなかで「기」の次に続く助詞「가」と品詞が自動詞の場合を「기+가+自動詞」として表し、そして助詞「를」に続く品詞が他動詞の場合を「기+를+他動詞」として表して考察してみることにする。

(1) 「기+가+自動詞」

韓国語の気に関する慣用句の「기+가+自動詞」の形態は15個の中で9個、全体の60%を支持している。

〈表 5-2〉形態別分類の構成

「기+가+自動詞」	기가 꺾이다
	기가 나다
	기가 막히다
	가가 오르다
	기가 죽다
	기가 차다
	기가 질리다
	기가 넘치다
	기가 살다

自動詞の形態を取っている慣用句で「기가 살다」は「기를 살리다」として、「기가 죽다」は「기를 죽이다」として他動詞の形態として使える。

つぎに韓国語の「기」に関する慣用句の中で他動詞を表すものを考察してみよう。

(2) 「기+를+他動詞」

「기+를+他動詞」の形態別の慣用句は合計15個の中で、2つあり、全体の13.3%を支持している。「기를 쓰다」「기를 펴다」がある。「기를 펴다」の反対語は「기를 못 펴다」または「기를 펴지 못하다」という形態としての表現も可能である。

〈表 5-3〉形態別分類の構成

「기+를+他動詞」	기를 쓰다
	기를 펴다

4.2.3. 形態別比率

韓国語の気に関する慣用句を表にまとめると以下の通りになった。

〈表 5-4〉形態別分類における構成比率

分類	個数	比率 (%)	形態別分類	個数	比率 (%)
動詞慣用句	11	73.3	기+가+自動詞	9	60
			기+를+他動詞	2	13.3
形容詞慣用句	4	26.7	기+形容詞	4	26.7
合計	15	100	—	15	100

韓国語の「기」に関する慣用句の品詞別を考察すると動詞慣用句が全体の73.3%を占め、15個中9個が自動詞であった。日本語の気の慣用句と同様、動詞慣用句が多いが、その中でも自動詞が多い。

5. 「気」に関する慣用句の対照

日本語の「気」に関する慣用句と韓国語の「기」に関する慣用句の意味を表記し、またどのような場合に使われるかについてその例題を出し、日韓両国の言葉に翻訳し整理してみる。まず、日本語の気に関する慣用句から考察してみる。

㉑は日本語の気の慣用句を表記し、㉒は韓国語訳を表記し、㉓は日本語の気の慣用句の意味を表す。

5.1. 日本語の「気」に対応する言葉

日本語の気の慣用句118個を韓国語に翻訳した場合、「心」に対応する類「마음」と「気分」に対応する類「기분」と、「精神」に対応する類「정신」と、「関心」に対応する「관심」と、「性質」に対応する類「성질」と、「神経」に対応する類「신경」と「心などに対応する類」「마음 등」と、それ以外の言葉で表される「その他」に該当する「그 외」に大きく分けて、日本語のそれぞれの「気」の慣用句と韓国語に翻訳した内容と例文とに整理して分類し、それぞれに対応する個数と比率を表してみた。

「心」に対応する「마음」は28個で23.7%、「気分」に対応する「기분」は4個で3.4%、「精神」に対応する「정신」は7個で5.9%、「関心」に対応する「관심」は1個で0.9%、「性質」に対応する「성질」は4個で3.4%、「神経」に対応する「신경」は7個で5.9%、「心など」に対応する言葉（마음 등）で表されるのが23個で19.5%、「その他」に対応する「그 외」は44個で37.3%を占める。

5.1.1. 「마음 (心)」に対応する類

日本語の気の慣用句の心(마음)に対応する類を意味を調べてみると、「心」の言葉に置き換えられる。心も気も目には見えないが実際存在するものである。赤塚行雄(1996)によると、心と気とは異なるものだとして表現している。心というのは本来、内に向かって閉ざされているものだが、気は外に向かって一種の目に見えない触手で波長のようなものでその触手にふれたり、波長を合わせてとらえたりしなければ相手の心のなかに入っていく。気という触手、波長がこちらを向き相手がいよいよその気になってようやく相手の心が開く。心というのは元来閉ざされているものであって、心は気によって外部と接触していて、気は心からでて目に見えない触手、触覚、波長のようなもので別の言い方をすれば呼吸だと言える。気は呼吸で息を吸ったり吐いたりする呼吸と結び付いて深呼吸することで気が落ち着き、そして心もゆったりとなるとある。

1 番の「気が合う」は「心が合う」と変えられるし、お互いのところが通じることを現す言葉である。気が合うということは、考えや気持ちが一致しやすいということで、その人のもつ気の波長が相手の持っている気の波長と合うという意味につながる、そうすることで心が通じるというわけである。韓国語では「마음이 맞다」いわゆる日本語の「気が合う」ということになる。28番までの内容は日本語の「気」を「心」に置き換えられる特徴がある。韓国語で心は「마음」であり、次の表に「마음 (心)」に対応する分類として次の表にまとめた。

〈表 6-1〉 「마음」 (心) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気が合う	㉡ 마음이 맞다
	㉢ 考えや気持が一致しやすく、互いに親しみをもつ	
	例) 彼とは不思議に気が合う (大辞林)	
2	㉠ 気が大きい	㉡ 마음이 넓다
	㉢ 細かいことを気にしない。度量が広い	
	例) 酒を飲むと気が大きくなる (大辞泉)	
3	㉠ 気が重い	㉡ 마음이 무겁다
	㉢ とてもそのことをする気になれず、嫌な気持でさっぱりしない事	
	例) 気が重い仕事 (大辞泉)	
4	㉠ 気が軽い	㉡ 마음이 가볍다
	㉢ そのことが負担に感じられず、気持が晴れ晴れとしている	
	例) 試験が終わったのでとても気が軽くなった (大辞林)	
5	㉠ 気が差す	㉡ 마음에 걸리다
	㉢ 気になる、しろめたい思いがする、良心がとがめる	
	例) 黙って欠席したので気が差します (大辞泉)	
6	㉠ 気が知れない	㉡ 마음을 알 수 없다
	㉢ 相手が何を考えているのかわからない	
	例) あんな遊びに夢中になるとは気が知れない (大辞泉)	
7	㉠ 気が進まない	㉡ 마음이 내키지 않는다
	㉢ そうしようという気にならない、気乗りがしないこと	
	例) 今度の仕事はあまり気が進まない (大辞泉)	
8	㉠ 気がとがめる	㉡ 마음에 걸리다
	㉢ 「悪いなあ」という気持がして仕方がないこと	
	例) 方便でもうそは気がとがめる (大辞泉)	
9	㉠ 気が減る	㉡ 마음을 써서 피곤하다
	㉢ やきもきすること	
	例) 気の減るやうな事多し (大辞林)	
10	㉠ 気が向く	㉡ 마음이 내키다
	㉢ そのことをしようという気持になること	
	例) 気きが向むいたら遊あそびにおいでよ (広辞苑)	
11	㉠ 気が楽だ	㉡ 마음이 편하다
	㉢ 気持がらくになること	
	例) あの人といると気が楽になる (作例)	
12	㉠ 気が休まる	㉡ 마음이 편하다
	㉢ ほっとして気持が落ち着くこと	
	例) 忙しくて気が休まる時がない (広辞苑)	
13	㉠ 気が緩む	㉡ 마음이 느슨해지다
	㉢ 緊張していたものがとれること	
	例) 試験が済むとすっかり気がゆるんでしまった (作例)	
14	㉠ 気が若い	㉡ 마음이 젊다

	例) まるで気のない返事 (大辞泉)	
28	㉑ 気は世を蓋う	㉒ 마음이 세상을 덮다
	㉓ 気力が雄大で世を圧倒すること (大辞林)	
	例) 力は山を抜き気は世を蓋う	

㉑日本語の気の慣用句 ㉒韓国語訳 ㉓意味

5.1.2. 「기분」 (気分) に対応する類

日本語の気に関する慣用句の中で、次に表される内容は韓国語で訳されたとき人の気分に対応される「기분」の類である。気分とは人の微妙な感情でありその人の心の状態をいう。1番の例文で「彼の言葉はとても気が悪いことばだ」とある。話し手の言葉が受け手の心の状態を悪くさせたということである。「기분」で表された内容をまとめたのが次の表である。

〈表 6-2〉「기분」 (気分) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉑ 気が悪い	㉒ 기분이 좋지 않다
	㉓ 気持が悪いこと	
	例) 彼の言葉はとても気が悪いことばだ (作例)	
2	㉑ 気を通す	㉒ 기분이 통하다
	㉓ 気をきかすこと	
	例) こんな女の目が気を通しすぎてしまう。(浮.一代女.三)	
3	㉑ 気を取る	㉒ 기분을 맞추다
	㉓ 機嫌をとる	
	例) 夫の気を取るため、今日はお馳走を作った (作例)	
4	㉑ 気が晴れる	㉒ 기분이 풀린다
	㉓ 辺りがぱっと明るくなるように、さわやかな気持ちになる	
	例) 悩みを相談したら気が晴れた (大辞林)	

5.1.3. 「정신」 (精神) に対応する類

日本語の気の慣用句の中で次に表された内容は、韓国語で訳されたとき人の精神に対応する「정신」である。辞書によると精神とは心の持ち方、はたらきであるとする。例文での「気が遠くなる」という意味は、精神的な意味と肉体的な意味の二つの意味がある。世界一周とは気が遠くなる話しだという精神的な意味を表すが、例文2は人混みで思わず気が遠くなったというのは失神してしまいそうだったという意味である。心の状態が普通でなくなるということと、肉体的にぼうっとして意識を失い掛けるという二つの意味あいがある。「정신」で対応する類が次の表である。

〈表 6-3〉「정신」 (精神) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気が腐る	㉡ 정신상태가 썩다
	㉢ 不順を恨み沈み込む、くさる	
	例) あいつは気が腐ったやつだ (大辞泉)	
2	㉠ 気が遠くなる	㉡ 정신이 아찔해지다. 정신을 잃다
	㉢ ショックや驚きのために、ぼうっとなること。意識がなくなる	
	例) ① 徒歩で世界一周とは気が遠くなるような話しだ (大辞泉)	
	例) ② 満員電車の中で人混みで思わず気が遠くなってしまった (作例)	
3	㉠ 気が触れる	㉡ 정신이 이상해지다
	㉢ 気が変になること	
	例) 奥さんが亡くなってから気が触れるようになった (作例)	
4	㉠ 気を入れる	㉡ 정신을 차리다
	㉢ 物事に積極的に取り組もうとすること	
	例) 気を入れて練習する (広辞苑)	
5	㉠ 気を付け	㉡ 정신을 차림
	㉢ 直立不動の姿勢を取らせるときの号令	
	例) 前に並んで、気を付けてください (作例)	
6	㉠ 気をつける	㉡ 정신을 차리다. 조심(주의)하다
	㉢ じゅうぶんに注意すること	
	例) 学校から帰ってくるときは、気をつけてね (作例)	
7	㉠ 気を取られる	㉡ 정신이 팔리다

	㉔ 注意をうばわれる
	例) 話しに気を取られて手元が狂う(大辞林)

5.1.4. 「관심」 (関心) に対応する類

日本語の気の慣用句の中で次に表された内容は、韓国語で訳されたとき「관심」として表される内容である。辞典によると関心とは物事に興味をもったり、注意を払ったりすることである。118個の慣用句の中でひとつしかなかった。例文の「気が多くて何にでも手を出す」というのは、物事に興味があって何でもしてみようということである。それからもうひとつの「気が多い」という意味は異性に対して人より関心があってひとりに絞れないという意味ももつ。

〈表 6-4〉「관심」 (関心) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉔ 気が多い	㉔ 관심이 많다. 바람기가 있다
	㉔ あれこれと心が移りやすい、浮気である	
	例) ① 気が多くて何にでも手を出す(大辞泉)	
	② 奥さんがいるのに気が多い人だ (作例)	

5.1.5. 「성질」 (性質) に対応する類

日本語の気の慣用句の中で次に表された内容は、韓国語で訳されたとき「성질」として表される内容である。辞典によると性質とはその人に生まれつき備わっている気質であるとある。「気が荒い」というのはその人の気質が荒っぽい人のことをいうのであり、「気が勝つ」というのもその人の気質が強くて負けん気の強い気質のことを表すことばである。全体の118個の中で4個で次の表で表した。

〈表 6-5〉 「성질」 (性質) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気が荒い	㉡ 성질이 거칠다
	㉢ 気持が荒っぽい、乱暴である	
	例) あの馬はとても気が荒い性格だ (作例)	
2	㉠ 気が勝つ	㉡ 성질이 꺾꺾하다
	㉢ 勝ち気である、気性が強い	
	例) 気が勝った女 (大辞林)	
3	㉠ 気が早い	㉡ 성질이 급하다
	㉢ 先を急いで、せかせかする性質	
	例) 彼は考えるやいなや行動する気が早い人 (大辞泉)	
4	㉠ 気が短い	㉡ 성질이 급하다
	㉢ 辛抱強く待つことができないですぐ怒ったり、いらいらしたりすること	
	例) 彼はとても優秀な人だが、気が短いのが欠点だ (国語基本用例辞典)	

5.1.6. 「신경」 (神経) に対応する類

日本語の気の慣用句の中で次に表された内容は、韓国語で訳されたとき「신경」として表される内容である。辞典によると神経とは外界の物事を鋭敏に感じ取って敏感に作用する心の働きとある。118個の気に関する慣用句のなかで7個あった。1番の「気が立つ」というのは、感情が高ぶって興奮しやすくなっている状態である。受験直前なので受験という外界の物事を鋭敏に感じ取って感情が高ぶって興奮しやすくなっている状態をいう。2番の「気にする」というのは例文でいえば「人が何と言おうと気にするな」というのは、自分以外の人からの物事を鋭敏に感じ取らないで感情を高ぶらせないようにしないようにという意味であり、「気にする」「気を利かせる」「気を兼ねる」「気を配る」「気を使う」「気を回す」は、「気が立つ」とは違い、自分が相手に対して神経を使って行く動作なので、「신경을 쓰다」と韓国語で訳される。全体の118個の中で7個あり、次の表で表した。

〈表 6-6〉 「신경」 (神經) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気が立つ	㉡ 신경이 날카로워지다
	㉢ 感情が高ぶって、興奮しやすくなること	
	例) 受験直前で気が立っている (大辞泉)	
2	㉠ 気にする	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ 「どうしようかと」 あれこれ心配すること	
	例) ① 人が何と言おうと気にするな (大辞泉)	
3	㉠ 気を利かせる	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ 細かいところまで注意を働かせること	
	例) ① 気を利かせて席を外す (大辞泉)	
	例) ② もう少し気を利かせてほしいな (作例)	
4	㉠ 気を兼ねる	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ 遠慮する	
	例) 気を兼ねて詞をそらした (大辞泉)	
5	㉠ 気を配る	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ 回りの人々や状況に対して細かい注意をはらうこと	
	例) 来客の多い日の母は、色々気を配るので気づかれがするそうだ (国語基本用例辞典)	
6	㉠ 気を使う	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ あれこれ心遣をすること	
	例) 気を使ってばかりいると疲れるわ (作例)	
7	㉠ 気を回す	㉡ 신경을 쓰다
	㉢ 他人のために、あれこれ思いつきにくいことまで、すばやく注意を促すこと	
	例) 彼はあれこれ気を回す人だから、あいまいな表現は使わないで、ストレートに言ったほうがいい (国語基本用例辞典)	

5.1.7. 「마음 등」 (心など) に対応する類

日本語の気の慣用句のなかで次に表された内容は、韓国語で訳されたとき「마음」にも訳され、また別の言葉にも訳される内容である。1番の気があるというのは、心があるという意味であるので「마음」があるとも訳されるし、彼に対して彼女が関心があるから「관심」があるとも訳される。全体の118個の中で23個が心とそれ以外に訳され次の表で表した。

〈表 6-7〉 「마음 등」 (心など) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気がある	㉡ 마음이 있다. 관심이 있다
	㉢ どこかでその異性を好きだと思っていること、関心があること	
	例) あいつは彼女に気がある (新国語辞典)	
2	㉠ 気が改まる	㉡ 마음이 새로워지다. 기분이 새로워진다
	㉢ 気分が新しくなる、慣れてだれた気持が引き締まる	
	例) ① 聖書を読んだら気が改まった感じがした (作例) ② 気が改まるように朝の祈禱会に行った (作例)	
3	㉠ 気がいい	㉡ 마음씨가 좋다. 심성이 착하다
	㉢ 気立てがいい。人がいい	
	例) ① 気がいいから何でも引き受けてしまう (大辞林) ② 気がいい人だけに騙されることも多い (作例)	
4	㉠ 気が変わる	㉡ 마음이 바뀐다. 생각이 바뀐다
	㉢ 気持が変わりやすいこと	
	例) お父さんの気が変わらないうちに早く家族旅行の申し込みをすませてしましましょう (国語基本用例辞典)	
5	㉠ 気が気でない	㉡ 마음이 마음이 아니다. 안절부절 못하다
	㉢ 心配で落ち着かない	
	例) ① 家族の安否が不明なので気が気でない (新国語辞典)	
6	㉠ 気がさわやかになる	㉡ 마음이 상쾌하다. 기분이 상쾌하다
	㉢ 気持がさっぱりとしてくること	
	例) あの人の一言で気がさわやかになった (作例)	
7	㉠ 気が済む	㉡ 마음이 놓이다. 기분이 풀리다
	㉢ 満足して気分がおさまる	
	例) ① とことんやらないと気が済まない (大辞泉) ② あなたの気が済むようにしたいでしょう (作例)	
8	㉠ 気が急く	㉡ 마음이 급해지다. 조바심이 나다
	㉢ 物事を早く言いたくてイライラする	
	例) ① 早く知らせねばと気が急く (大辞泉) ② 最近は気が急くことばかりだ (作例)	
9	㉠ 気が沈む	㉡ 마음이 우울해지다. 기분이 우울해지다
	㉢ 気持が暗くなること	
	例) 今日はちょっと気が沈んだのでショッピングにでかけた (作例)	
10	㉠ 気が違う	㉡ 마음이 통하지 않다. 생각이 다르다
	㉢ 気の持ちようが正常から外れていること	
	例) あの人はどう見ても気が違っているように見える (作例)	
11	㉠ 気が散る	㉡ 마음이 산만하다. 기분이 산만하다.
	㉢ 心を一つのことに集中することができないこと	
	例) ① テレビがうるさくて気が散る (大辞泉)	
12	㉠ 気がない	㉡ 마음이 없다. 관심이 없다

	㉔ 興味が無い	
	例) ① まるで気がない返事 (大辞泉)	
	例) ② 彼にはもともと気が無かった (作例)	
13	㉕ 気が乗る	㉕ 마음이 내키다. 의욕이 생기다
	㉔ ある物事に対して興味や関心がわき積極的になる	
	例) ① 気が乗らない顔つき (大辞泉)	
	② 音楽の話になると、気が乗り出す (作例)	
14	㉕ 気が張る	㉕ 마음이 긴장되다
	㉔ 気持を引き締めていなければならない状態	
	例) ① 上司の前では気が張る (大辞泉)	
	② 会社の経営が悪いので、社員全員が今気が張っています (作例)	
15	㉕ 気が弱い	㉕ 마음이 약하다. 소심하다
	㉔ 強い態度をとれない性格	
	例) 彼は商売人に似合わず気が弱くて、思いきったことができない (国語基本用例辞典)	
16	㉕ 気に障る	㉕ 마음에 거슬리다. 비위를 거슬리다
	㉔ 不愉快に思うこと、感情を害すること	
	例) ① 気に障るものの言い方をする (大辞泉)	
17	㉕ 気になる	㉕ 마음에 걸리다. 신경 쓰이다. 걱정이 되다
	㉔ 「どうなのか」といった心配や不安の気持があること	
	例) 私は、友人から、かれのことでちょっと気になる噂をきいた (国語基本用例辞典)	
18	㉕ 気に病む	㉕ 걱정하다. 부담스럽다
	㉔ ちょっとしたことを心配して悩む	
	例) ① 業績不振を気に病む (大辞泉)	
	② そんなことを気に病んでもしょうがない (作例)	
19	㉕ 気を奪われる	㉕ 마음을 빼앗기다
	㉔ ある1つの事に気持がひかれ、他を一切考えなくなること	
	例) 今、他の事に気を奪われて何もできない (作例)	
20	㉕ 気を変える	㉕ 마음을 바꾸다. 생각을 바꾸다
	㉔ 気持を変えること、考え方を変えること	
	例) あの人の気を変えるためにはどうしたらいいの (作例)	
21	㉕ 気を引く	㉕ 마음을 끌다. 속을 떠보다
	㉔ 相手の関心をこちらに向けさせること	
	② 今日は素敵なドレスを着て、彼の気を引かなくちゃ (作例)	
22	㉕ 気を許す	㉕ 마음을 놓다. 긴장을 풀다
	㉔ 警戒心や緊張を解いて無防備の状態になる事	
	例) 子供だと思って気を許していたら、一本とれられてしまった (国語基本用例辞典)	
23	㉕ 気もそぞろ	㉕ 마음이 싱숭생숭하다. 손에 잡히지 않다
	㉔ あることに心をうばわれて落ち着かないさま、そわそわすること	

	例) 結婚式が近いので気もそぞろだ (日本語辞典)
--	---------------------------

5.1.8. 「그 외」(その他) に対応する類

日本語の気に関する慣用句の中で、「마음」「기분」「정신」「관심」「성질」「신경」「마음 등」以外で表される内容が下記の表で全体の118個のなかで44個にあたる。

〈表 6-8〉「그 외」(その他) に対応する類

番号	日本語の気の慣用句	韓国語
1	㉠ 気が置けない	㉡ 허물이 없다
	㉢ 気遣いする必要がない、遠慮がない	
	例) ㉠ あの人は気が置けない間柄だ (大辞泉)	
2	㉠ 気が利く	㉡ 눈치가 빠르다
	㉢ 細かいところにまで注意が及ぶ	
	例) 若いのによく気が利く (大辞泉)	
3	㉠ 気が狂う	㉡ 미치다
	㉢ 精神の働きがおかしくなる	
	例) 忙しくて気が狂いそう (作例)	
4	㉠ 気が知れない	㉡ 속마음을 알 수가 없다
	㉢ その人の気持が理解できない	
	例) あんなに遊びに夢中になるとは気が知れない (大辞泉)	
5	㉠ 気がする	㉡ 생각이 들다. 느낌이 들다
	㉢ そのように思う、感じられること	
	例) ㉠ 危ない気がする (大辞泉) ㉡ あの人はいい人のような気がする (作例)	
6	㉠ 気がそがれる	㉡ 기가 꺾이다
	㉢ 何かをしようという意気込みがぐじかれること	
	例) 批難すると気がそがれる (大辞泉)	
7	㉠ 気が小さい	㉡ 소심하다
	㉢ ささいなことを気にする	
	例) 気が小さいから大きなことができない (作例)	
8	㉠ 気が付く	㉡ 깨닫다. 생각(이) 나다
	㉢ 細かいところまで配慮が行届くこと	
	例) 間違いに気が付いた (大辞泉)	
9	㉠ 気が尽きる	㉡ 기운이 없어지다. 기가 빠지다
	㉢ 気力がなくなること	

	例) 気が尽きるほど勉強をした (作例)	
10	㉠ 気が強い	㉡ 고집이 세다. 기세가 세다
	㉢ 自分の意見を主張して曲げない性格	
	例) ① 気がつよい選手 (大辞泉)	
	例) ② 彼女は見掛けよりは気が強い性格だ (作例)	
11	㉠ 気が通る	㉡ 눈치가 빠르다
	㉢ さばけている、粋である、気が利く	
	例) 気が通りたる主とうちくつろぎて (浮・懷・四)	
12	㉠ 気が詰まる	㉡ 기가 막히다
	㉢ 精神的に窮屈で圧迫されたように感じる事	
	例) 彼と一緒にいると気が詰まる (大辞泉)	
13	㉠ 気が長い	㉡ 마음이 늘쫓하다. 성미가 느긋하다
	㉢ 何事にも時間がかかっているのんびりしている事	
	例) あの人は気が長い性格である (作例)	
14	㉠ 気が抜ける	㉡ 긴장이 풀리다
	㉢ 緊張していた状態がなくなってぼんやりすること。飲み物などの風味がなくなる	
	例) 試験が終わって気が抜けた (大辞泉)	
	例) 気が抜けたビール (大辞泉)	
15	㉠ 気が上る	㉡ 욱하다. 이성을 잃다
	㉢ のぼせる、のぼせ上がる、逆上する	
	例) むげにはづかしとおもひたりつるに、気ののぼりたらん (国語慣用句大辞典)	
16	㉠ 気が弾む	㉡ 들뜨다
	㉢ 気持が愉快になる	
	例) 気はずんだ声で電話にでてくれた (作例)	
17	㉠ 気が引ける	㉡ 주눅이 들다
	㉢ 遠慮したい気持になること、気遅れがすること	
	例) 会社の帰り近所のお通夜に寄ったが、ピンクのブラウスを着ていたので気がひけた (国語基本用例辞典)	
18	㉠ 気が回る	㉡ 머리가 잘 돌아. 세심하다
	㉢ 細かいところまでよく注意が行き届くこと	
	例) ① そこまで気が回らなかった (大辞泉)	
19	㉠ 気が滅入る	㉡ 우울해지다
	㉢ 気持が沈んでしまうこと	
	例) ① 梅雨の長雨で外出もままならず、ひとりで家にこもっていると、気が滅入ってくる (国語基本用例辞典)	
20	㉠ 気が揉める	㉡ 애가 타다
	㉢ 心配でいらいらすること	
	例) ① 到着が遅れて気がもめる (大辞泉)	
	例) ② 無事かどうか気がもめる (作例)	
21	㉠ 気を失う	㉡ 의식이 없어지다. 실신하다

	㉔ 意識をなくす、失神する 例) 夫の交通事故を知らされたとき、彼女は気を失ってしまった (国語基本用例辞典)	
22	㉕ 気を置く	㉕ 상대방의 기분을 염려(걱정) 하다
	㉖ 心を向けること、そのことを良く考えておくこと 例) 彼にいつも私は気を置くようにしている (作例)	
23	㉗ 気を起こす	㉗ 의욕을 가지다
	㉘ 気持を起こさせること 例) 今日から気を起こして頑張ろう (作例)	
24	㉙ 気を落とす	㉙ 실망하다. 낙심하다
	㉚ がっかりする、失望する、気落ちする 例) まあ、そんなに気を落とすなよ (新国語辞典)	
25	㉛ 気を砕く	㉛ 애쓰다
	㉜ いろいろと心配りをする 例) ① 弟ゆえに気を砕く (大辞林)	
26	㉝ 気を触る	㉝ 불쾌하게 느끼다
	㉞ 注意を他に向ける、気を取られる 例) よしないことに気をふれ、最後の念をみださず共 (日本国語辞典)	
27	㉟ 気をそらす	㉟ 다른 것에 관심을 돌리다
	㊱ 気持を別の方に向けること 例) 気をそらさないで、私の話をきいてちょうだい (作例)	
28	㊲ 気を損ずる	㊲ 불쾌하게 하다. 화나다
	㊳ 自分の気持を悪くすること 例) 気を損ずることは言わないようにしましょう (作例)	
29	㊴ 気を取り直す	㊴ 생각을 바꾸다
	㊵ 元気を取り戻すこと、心の持ち方を変えること 例) 今年は優勝できなかったが、気を取り直して、ぜひ来年がんばろう (国語基本用例辞典)	
30	㊶ 気を尽くす	㊶ 기력이 다 하다
	㊷ 根気を使い尽くす 例) 自づと気を尽くしての手枕 (大辞林)	
31	㊸ 気を抜く	㊸ 긴장을 풀다
	㊹ 緊張を緩めること (大辞林) 例) 最後まで気を抜くな	
32	㊺ 気を吞まれる	㊺ 기가 꺾이다
	㊻ 心理的に相手に圧倒されること 例) 相手の勢いに気を吞まれる (大辞林)	
33	㊼ 気を吞む	㊼ 기가 꺾이다
	㊽ じっと息をこらす、かたずをのむ 例) 気を吞んでかかる (大辞林)	
34	㊾ 気を吐く	㊾ 위세가 좋다

	㉔ 威勢のよいことを盛んにいうこと ㉕ 威勢のよいところを示すこと 例) ㉔ひとり気をはく (大辞林)
35	㉖ 気を張る ㉗ 긴장하다 ㉘ 気持を強くもつこと、気持を引き締めること 例) 馴れない外国で気を張って生きる (広辞苑)
36	㉙ 気を引き立てる ㉚ 용기를 북돋우다 ㉛ 気持が沈んでいるのを励まして、元気にすること 例) 悲しんでいる彼の気を引き立てるように話しかけた (作例)
37	㉜ 気を紛らす ㉝ 불쾌한 기분을 잊게 하다 ㉞ いやな思いをなくすよう、他に関心を向けること 例) 気を紛らわすために絵を描くことにしました (作例)
38	㉟ 気をもたす ㊱ 기대를 갖게 하다 ㊲ 思わせ振りで相手の気を引くこと 例) すぐ返事をするより、彼に気を持たせた方がいい (作例)
39	㊳ 気をもたせる ㊴ 기대를 갖게 하다 ㊵ それとなく他人に期待をいだかせること 例) 気をもたせた言い方 (大辞林)
40	㊶ 気を緩める ㊷ 긴장이 풀리다 ㊸ 心の緊張を解くこと 例) つい、親戚だと思って気を緩めてしまった (作例)
41	㊹ 気を良くする ㊺ 만족하게 하다 ㊻ いいことがあって、愉快的気持になること 例) 評判がよいのに気をよくする (大辞泉)
42	㊼ 気を悪くする ㊽ 불쾌하게 하다 ㊾ 不愉快的気持になること 例) 心ない言葉に気を悪くする (大辞泉)
43	㊿ 気に掛ける ㋀ 걱정을 하다 ㋁ どうなったか、どうしているかと心配すること 例) いつも気に掛けてもらってありがとうございます。(作例)
44	㋂ 気の毒 ㋃ 딱함. 안됨. 가없음. 불쌍함 ㋄ 他人に迷惑をかけて申し訳なく思うこと また、そのさま 例) 彼には気の毒なことをした (大辞泉)

以上の翻訳した内容を見ると、日本語の気に関する慣用句を韓国語に翻訳した場合、日本語の「気」は、心、気分、精神、関心、性質、神経、その他と韓国語にしたときはじめて具体的なその意味として現れていく特徴をもっている。以上の日本語の気の慣用句を韓国語に訳したときの分類を示したのがつぎの表である。

〈表 6-9〉日本語の「気」の慣用句の分類表

日本語の「気」の韓国語訳	個数	パーセント (%)
마음 「心」・마음 등 「心など」	51	43.2
기분 「気分」	4	3.4
정신 「精神」	7	5.9
관심 「関心」	1	0.9
성질 「性質」	4	3.4
신경 「神経」	7	5.9
그 외 「その他」	44	37.3
合計	118	100%

5.2. 韓国語の「기」の意味で表される言葉

韓国語の辞典の中に出てくる、気に関する慣用句は、以下に掲載したように15個みつかった。その語句と意味と用例を調べてみることにしよう

韓国語の「기」の慣用句にも「기」そのものを用いた表現が少し存在するが、日本語を韓国語に訳した場合、心(마음)、気分(기분)、性質(성질)、関心(관심)、神経(신경)、その他(기타)とわけられたが、韓国語の「기/ (気)」に関する慣用句はその言葉自体には訳することはできなく、それぞれの言葉の意味を表すしか表現することができない。日本語の「気」に関する慣用句は外的な力とか表すものではなく内面的なものを表す場合が多かったのに対して、韓国語では外的な力とに表される表現が多い。日本語の気の慣用句と同様、㉑は韓国語の「기」の慣用句を表し、㉒は韓国語の「기」の日本語訳を表し、㉓は韓国語の「기」の慣用句の意味を表記して考察してみる。

5.2.1. 「気分」 (기분) の意味で表される言葉

韓国語の気の慣用句の中で人間の気分を表す言葉は「기가 꺾이다」と「기를 펴다」と「기가 등등하다」の3つがあった。「기가 꺾이다」は日本語で言えば「気が挫ける」とか「意気消沈する」とか「やる気がなくなる」時に使う慣用句である。「기를 펴다」というのは日本語で言えば「気持ちが晴れる」とか、「気持ちが晴れやかになる」とか、「気持ちが軽くなる」とかの場合に使う言葉である。「기가 등등하다」という言葉も気持ちがしっかりしているというときに使う慣用句である。㉠は韓国語の気の慣用句、㉡は日本語訳、㉢は韓国語の「기 (気)」の慣用句の意味と例文を下記の表で表した。

〈表 7-1〉 「気分」 (기분) の意味で表される言葉

番号	韓国語の「기」の慣用句	日本語訳
1	㉠ 기가 꺾이다	㉡ 気がくじける、意気消沈する
	㉢ 기세가 수그러지다	
	예) 그는 거듭되는 실패에도 결코 기가 꺾이지 않는다	
2	㉠ 기를 펴다	㉡ 気持ちが晴れる、気持ちが軽くなる
	㉢ 억눌림이나 어려운 지경에서 벗어나 마음을 자유롭게 가지다	
	예) 사람이 가난하면 기를 펴지 못하고 산다	
3	㉠ 기가 등등하다	㉡ 意気軒昂
	㉢ 우쭐해하는 기세가 대단하다	
	예) 한 판 이기고 나더니 기가 등등해지다.	

5.2.2. 「性質」 (성질) の意味で表される言葉

韓国語の「기」の慣用句の中で人間の性質を表す言葉は、‘기가 세다’ひとつだけである。日本語で訳すると気が強いという性質を表す言葉である。

〈表 7-2〉 「性質」 (성질) の意味で表される言葉

番号	韓国語の「기」の慣用句	日本語訳
1	㉠ 기가 세다	㉡ 気が強い
	㉢ 성품이 억세다	
	예) 난 항상 기가 센 여자가 아니다	

5.2.3. 「その他」 (그 외) の意味で表される言葉

韓国語の「기(氣)」の慣用句が気分と性質以外の意味で表される言葉は11個ある。精神的な意味を表す意味よりも、肉体的な力を表す意味の言葉がたくさんあり下の表で表した。

〈表 7-3〉 「その他」 (그 외) の意味で表される言葉

番号	韓国語の「기」の慣用句	日本語訳
1	㉠ 기가 나다	㉡ 意欲が出る、やる気になる。
	㉢ 기세가 오르거나 의욕이 일어난다	
	예) 그는 점점 기가 나서 소리를 뻑뻑 질렀다	
2	㉠ 기가 막히다	㉡ 息が詰まる
	㉢ 숨이 제대로 통하지 못하다. 지나치게 좋거나 놀라거나 어이없다	
	예) 그 사람의 행동을 보면 기가 막혀서 말이 안나온다.	
3	㉠ 기를 쓰다	㉡ 全力を尽くす
	㉢ 온 힘을 다하다	
	예) 기를 쓰고 공부하다	
4	㉠ 기가 오르다	㉡ あくがきをする
	㉢ 발악하다	
	㉣ 기가 올라서 견딜수가 없다	
5	㉠ 기가 죽다	㉡ 意気消沈する、しよげる
	㉢ 기세가 쑥 들어가버리거나 의지가 사라지다	
	예) 그 사람은 사업 실패후 기가 죽은 것 같이 보인다	
6	㉠ 기가 질리다	㉡ おじける、萎縮する

	㉔ 두려워서 기가 꺾이다 예) 그의 노기에 기가 질려서 말문이 다 막혔다	
7	㉕ 기가 차다	㉕ 嘔然とする、あきれる
	㉔ 하도 어이가 없어서 말이 나오지 않다 예) 기가 차서 말문이 막힌다	
8	㉕ 기가 부족하다	㉕ 体が弱い
	㉔ 몸이 약하다 예) 몸이 쇠약하여 기가 부족하다.	
9	㉕ 기가 넘치다	㉕ 元気が溢れている
	㉔ 건강하고 힘이 많다 예) 그 아이는 기가 넘쳤다	
10	㉕ 기가 왕성하다	㉕ 気が旺盛
	㉔ 활동하는 힘이 왕성해지다 예) 기가 왕성하면 몸이 건강하고 기가 부족하면 몸이 건강하지 못하다	
11	㉕ 기가 등등하다	㉕ 意氣軒昂
	㉔ 우쭐해 하는 기세가 대단하다 예) 한 판 이기고 나더니 기가 등등해지다.	

韓国語の「기」に関する慣用句は、日本語と比べて数も少ないし、日本語の場合は心を意味する内容や主に精神的な目に見えないものに対するものが多かった。日本語での「기를 쓰다」は「気を使う」という意味で「気を配る」という相手に対して精神的なところを使うという意味に使われるが、韓国語では「体全体の力を使う」とこのように書かれているのを見ると、韓国語の気というのは日本語のもつ意味的な内容よりも、力とか気分とかどちらかというと力を意識した内容の方が多く、下記の表は日本語の気の慣用句を韓国語に訳したときに訳された言葉を韓国語の「기」と対比してみた場合の統計である。

〈表 7-4〉日本語と韓国語との意味に対する比率

韓国の「기」に関する慣用句が表す意味	個数	パーセント (%)
心 (마음)	0	0
気分 (기분)	3	20%
精神 (정신)	0	0
関心 (관심)	0	0
性質 (성질)	1	7%
神経 (신경)	0	0
心など (마음 등)	0	0
その他 (그 외)	11	73%
合計	15	100%



Ⅲ. 結論

日本語と韓国語は、語彙的な面や文法的な面ではお互いに共通する要素がある。円滑なコミュニケーションを図る上では慣用句は理解しがたいものであるが、そこにはその国の歴史や考え方など様々な要素が含まれている。

日本人は、韓国人と比べたときは自分の考えをはっきりと表現しないので、やさしいけれど何を考えているのか良く分かりにくいと聞く。慣用句の中で「気」の慣用句は、多くの言葉を語らなくても「気」の一言の文字を使う言葉の中には、様々な意味が含まれているので、日本人そのものを表している慣用句ではないかと思う。グローバル時代は言語だけでなく、相互関係の理解を深めるためには、文化の違いを知った土台でのコミュニケーションの必要性を感じるため、本稿では日韓の対照研究としてこのテーマを選択した。

まず、日本と韓国の慣用句に対する定義を辞典と研究者たちの内容を分析すれば二つ以上の単語が連結され、長い間固定された状態で使われながら二つの単語の意味が固定された意味で表現されたものであると共通している。

「気」の語源が中国にあるため、中国人が捉えている「気」の概念を調べてみると、古代中国人はこの宇宙を二極構造で理解していて、天界と地界とにわけて天界にいる神様が「気」を通して人間と意思伝達をしていたと捉えている。日本人にはそのような信仰がないため「気」を情緒的に捉えた反面、韓国では医学的な面や力の面で気を受け入れたため、両国で気の取り入れ方に違いがある。

次に、「気」の意味に関して日本と韓国の辞典に収録されている意味を考察してみた。日本語の辞典では、「気」というのは、心の動き、働き、状態、精神、性質など、目には見えないものに対する働き、特に心に対する働きなどが多く含まれている。そ

れに比べて、韓国語の「기」は、活動の力、万物生成の時の力、息、精神的な力など、人間の内面性の内容というよりは、外的な力のほうに捉えている。

次に、五つの辞書のなかに収録されている日本語の「気」に関する慣用句は118個あり、韓国語の「기」に関する慣用句は15個であった。それを形態別に分類してみた結果、日本語においては、名詞慣用句は2個で比率は1.7%、形容詞慣用句は19個で16.1%、動詞慣用句は97個で82.2%あり、韓国語の「기」に関する慣用句15個を調べた結果、韓国語においては動詞慣用句が11個で73.3%を占め、形容詞慣用句は4個で26.7%である。形態別に見ても韓国語の「기」も日本の「気」も動詞で現される部分が多く、数も動詞の表現内容でも日本語のほうが断然多い。

「気」に関する慣用句を日本語と韓国語に翻訳してみた結果、特に日本語を韓国語に訳してみると心、気分、性質、関心、神経、精神など心に匹敵する訳が63.7%でそれ以外の内容に訳されるのが37.3%である。そして韓国語の「기」に関する慣用句は気分が20%で、性質が7%、その他が73%である。翻訳内容の結果を通してても分かるように、日本語ではただ、「気」と表現される内容が韓国語への翻訳を通して明確な形として現されていく。韓国語でも「기」という一言の言葉が日本語で訳されていくとその意味の姿が明確に現されていく。

以上の内容を通して分かるように、日本語のもつ「気」の意味は65%近くが心など内面的なものを表すものに訳される。天上信仰のなかった日本人にとって「気」というものは主に心に働きかける神の存在に対して、情緒的な感覚として受け止めてきたのである。韓国では医学的な面や力として受け止めてきたので、日本人の受け止める内面的な捉え方はない。日本語で「気」に対する慣用句が多く、日常生活の中での慣用句として使われるのは、日本人にとって「気」とは目に見えない神の存在の働きが主に心に働き掛けるため、その存在を気にして大切に受け止めてきたためであると言える。以上の内容を通して、両国での気の意味と捉え方が根本的に違いがあるといえる。今後も両国の違いを課題として研究し、コミュニケーションに役立てたい。

参考文献

- 金鐘澤 (1971) 「이디엄研究」 『語文学』 25号 大邱教育大学校論文集
- 金圭善 (1978) 『国語慣用語句の研究』 大邱教育大学校論文集
- 박경희 (2000) 『氣에 관한 일본어 관용구의 연구』 동아대학교 대학원 석사학위논문
- 박부중 (2010) 『氣의 관용구에 대한 한·일대조 연구』 충남대학교 대학원 원석사학위논문
- 임은령 (2006) 『氣의 관용구에 대한 의미 분석』 경희대학교 교육대학원 석사학위논문
- 鄭秀賢 (1996) 「氣の語句をめぐる表現の日・韓対照研究」 『日本語学』 7月号 明治書院
- 赤塚行雄 (1996) 「日本における氣の歴史」 『日本語学』 7月号 明治書院
- 浅野裕一 (1996) 「中国における氣の概念」 『日本語学』 7月号 明治書院
- 井原西鶴 (1985) 「好色一代女」 『日本古典文学全集』 小学館
- _____ (1985) 「懷硯」 『日本古典文学全集』 小学館
- 大谷晋也 (1996) 「氣の慣用語句の結合度」 『日本語学』 7月号 明治書院
- 国広哲弥 (1985) 「慣用語論」 『日本語学』 1月号 明治書院
- 坂田雪子 (1985) 「日本語教育における慣用語」 『日本語学』 1月号 明治書院
- 宮地裕編 (1982) 「慣用語の意味と用法」 『日本語学』 6月号 明治書院
- 森田良行 (1985) 「動詞慣用語」 『日本語学』 1月号 明治書院

〈辞典類〉

- 국립국어연구원 (1999) 『표준국어대사전』 두산동아
- 서울대東亜文化研究所 (1984) 『국어국문학사전』 신구문화사
- 연세대언어정보개발연구원 (1998) 『연세한국어사전』 두산동아
- 이희승 (1979) 『국어대사전』 민중서림
- _____ (1990) 『국어대사전』 민중서림
- _____ (2006) 『옛센스국어대사전』 민중서림
- 한글학회 (2008) 『우리말사전』 한글학회
- 飛田良文他 (2007) 『日本語学研究事典』 明治書院
- 国語学会編 (1980) 『国語学大辞典』 東京堂出版
- 白石大二 (1983) 『国語慣用句大辞典』 東京堂出版
- _____ (2000) 『日本国語大辞典』 小学館
- 新村出 (1991) 『広辞苑』 第四版 岩波書店
- 林四郎 (1998) 『新国語大辞典』 三省堂
- 林史典 (1986) 『国語基本用例辞典』 教育社
- 村松明 (1988) 『大辞林』 初版 三省堂
- _____ (1998) 『大辞泉』 小学館
- 山口明穂・秋元守英 (2001) 『日本語文法大辞典』 明治書院